

平成30年度
お茶の水女子大学論
ロールモデル講演集

リーダーシップ養成の実践のために

「お茶の水女子大学論」は、主に1年生を対象として、お茶の水女子大学の特色を知り、自らの将来をイメージしながら学生が在学期間を有意義に過ごすための導入的講座で、4つの要素（※1）から成り立っています。本講座では、学部生がお茶の水女子大学の歴史と現在を学ぶことを通して、本学の教育カリキュラムを自律的に選択し、授業を有効に活用し、社会のさまざまな場面でリーダーシップを発揮する人間として成長することを目指しております。

本冊子は、その一環として行われた、卒業生によ

るロールモデル講演（全6回）の内容をまとめたものです。第1回（5/16）は中澤陽子氏、第2回（6/6）は倉持陽子氏、第3回（6/13）は広石真珠子氏、第4回（6/27）は立石佳子氏、第5回（7/4）は伊奈恵美子氏、第6回（7/25）は青山美奈氏にご担当いただき、学生時代の過ごし方や職場での体験・経験などについてお話しいただきました。ご講演いただいた皆様にはこの場を借りて改めて御礼申し上げます。また、各回における受講生の感想も一部ではございますが、最終ページにまとめて掲載しております。

小林 誠（グローバルリーダーシップ研究所長）

（※1）

1. 学長によるオリエンテーション
2. お茶大の歴史、お茶大生の特徴、学内の各種プログラムを知る
3. お茶大卒業生のロールモデルから学ぶ
4. お茶大講演会で学ぶ

目次

中澤陽子氏 (東京海上日動火災保険株式会社)	文教育学部 言語文化学科 卒	2
倉持陽子氏 (株式会社日本経済新聞社)	理学部 情報科学科 卒 同大学院 修了	3
広石真珠子氏 (株式会社リクルートマーケティングパートナーズ)	生活科学部 人間生活学科 卒	4
立石佳子氏 (カタリナマーケティングジャパン株式会社)	生活科学部 人間生活学科 卒	5
伊奈恵美子氏 (日本アイ・ビー・エム株式会社)	文教育学部 人間社会科学科 卒	6
青山美奈氏 (株式会社ブリヂストン)	理学部 化学科 卒 同大学院 修了	7
受講生の声		8

学生時代に大切にしてほしい事 (2018.5.16)

中澤陽子氏 (東京海上日動火災保険株式会社)



学生時代から、授業・サークル活動・アルバイトに対して、全力投球の姿勢で臨みながら、社会人になってからも役に立つようなスキルを培ってきました。中でも、相手との信頼関係を築く上で、自分の殻を脱ぎ内心が現れている状態で相手と接することは、社会人となった今でも心がけています。

就活では、新聞購読や企業の説明会を通じて、自分の意見を持つことや、様々な業界・会社を知ることができました。就職先を選ぶ時に、特に重要となるのは「自分の軸を持つ」ことだと思います。勤務地・福利厚生・企業規模・収入・業界・職種など、人間の価値観は一律ではありません。自分がこれから何を大切に生きていきたいか、という軸を持つことは、社会人として働き続ける上でも大切なことです。

当社では、Iターン制度や短時間勤務制度などが用意されています。制度だけでなく、仕事と家庭の両立では、まず自分は何をしたいのか考えた上で、バランスを保つことが大切です。また、環境を味方につけることも重要です。夫も主体的な当事者として育児に関わる必要があります。親族や職場の上司・同僚に対しても、日頃からいざという時に力となってくれるような人間関係を築いていくことが大切です。そして、時間は努力して生み出すものと考え、1日24時間という万人に平等に与えられた時間を有効に活用することが重要です。

皆さんも、是非新しい環境に飛び込んで、新しい出会いを求めていってください。多様な価値観に触れることは、自分の人生を主体的に生きることにも繋がると思います。



理学部情報科学科大学院修了の先輩（2018.6.6）



学部時代は、インカレ・登山サークルや、阪神淡路大震災などでのボランティア活動をしていました。大学院では、Data Visualization(情報の可視化)について研究をしており、ソニーの研究所で週3、4回バイトもしていました。

就職先でも大学で学んだ知識を活かしたいと考えた私は、日本経済新聞社に入社しました。当社を選んだ理由としては、何らかの分野に特化したものが良いと思ったことや、都心にあること、経済新聞であれば潰れないだろうと思ったこと等が挙げられますが、結果的には人で選んだと言えます。

会社では、主に技術系の仕事、具体的には当社の記者が使う記者用ソフトのような、新聞を作るシステム作りや、ネットサービスの担当をしてきま

倉持陽子氏（株式会社日本経済新聞社）

した。特に、26歳の時に担当した就活サイトは、ビジネスとシステムの両方を考える機会、チャレンジをさせてもらう機会を与えてもらった仕事だったため、これまで仕事とは何だろうと思っていた私が、社会人として目覚めるきっかけとなりました。

現在は、日経電子版とNikkei Asian Reviewに携わっています。海外との会議も行われるようになり、益々デジタル&グローバルが求められています。これからは、英語ができるだけでなく、英語で何ができるかが大事だと思います。

これまでのキャリアの積み上げは、OJT(On the Job Training)で対応してきたことによると思います。真面目に取り組み、何事も経験と考えてチャレンジすることにより、適応力も増したことが、キャリア形成の上で役立ちました。

皆さんも、「土台」ややりたいことを大事にしてください。「土台」とは、書籍『さあ、才能(じぶん)に目覚めよう: ストレngthス・ファインダー2.0』(トム・ラス著、古屋博子訳、2017年、日本経済新聞出版社)で言う「資質」に近いです。自分がその資質を持ちながら、勉強しつつ社会に適応していくことが大切だと思います。

生活科学部人間生活学科卒の先輩（2018.6.13）

広石真珠子氏（株式会社リクルートマーケティングパートナーズ）



学生の頃は、お茶大を出ていれば大して何も考えなくても何とかなる、今からキャリアなんて考えられない、と思っていました。しかし、色々と経験してきた今は、「きちんと考えたら人生はきっと変わる」ものであり、人生に早いも遅いもなく、「考えて行動した時間は人を素敵にする」だろうと考えています。学生の内に、膨大な時間を使って、自分はどういう人間になりたいのかを考えることが大事なことだと思います。

最初に就職したみずほ証券株式会社では、いくつかのマインドセットを行うことで、辛い局面を乗り越えて来ました。仕事にも慣れてきた頃、本当に目の前のお客様のためなのか、本当にやりたいことが見つかった時に、それができるスキルがこの職場で身につけているのか、を問い直してみる内に、転職を意識するようになりました。

転職の際、私が会社選びの判断軸としていたのは、社会人としての基礎を学び直したい、きれいごとが通用するような会社で働きたい、自分で考えて自分が良いと思ったことを一生懸命できる環境が嬉しい、という点でした。現在、勤務している会社では、私が自信のないスキルを身につけることができるという提唱しており、数字だけでなく、お客様のためになることをするべく、主体的に働くことができます。

ぜひ皆さんは、手段目的は常に考えて行動してください。また、できないことは当たり前なので、今日の自分ができることをして、発想の転換を行ってみましょう。バイト以外の、お金をもらって責任が発生する場で、自分が強くやりたいと思っている何かをしてみる経験も、学生の内にぜひやってほしいことの1つです。そして、自分の大事にしたいものは何かを知ることは大事なことです、皆さんもぜひ考えてみてください。



20年後のお茶大生から皆さんへ（2018.6.27）

立石佳子氏（カタリナマーケティングジャパン株式会社）



私はカウンセリングについて学びたいと思い、1994年に生活科学部へ入学しました。大学院まで進んだものの、自分の進路は臨床家でも研究者でもないと感じ、一般企業への就職を目指しました。

市場調査業界に就職してみると、男女・新人キャリアに関係なく調査案件を任される、世に出る前の情報を共有し一緒に取り組むことができる、調査結果が商品に反映されるなどの利点がありました。その反面、研究ではなくビジネスとして考え

る必要性、クライアント・協力会社との力関係の発生、残業体質などの悪い点もありました。

「仕事は面白い、だが、しんどいところもある」業界で、色々な悩みを持ち続けながらも約12年間勤めましたが、労働時間を改善するため、現在の会社へ転職しました。当社は外資系のマーケティングサービス会社で、主要スーパーのレジでクーポンを発券する仕組みを売っています。

私が仕事をする上で大切にしていることは、双方向のコミュニケーション、展開を先読みして準備をしておくこと、そして周囲への感謝の気持ちを忘れないことです。これから就活する皆さんには、好き・やりたいという感覚を大事にして、自分の人生の時間をどんな風に使いたいかを考えつつ、職業選択をしてもらいたいと思います。色々な経験をして、自分が得意なことを見つけ、それを伸ばして強みにしていってください。



文教育学部人間社会科学科卒業の先輩（2018.7.4）

伊奈恵美子氏（日本アイ・ビー・エム株式会社）



私は、2001年に日本アイ・ビー・エム株式会社へ入社しました。最初は、「自らの手で何か新しいものを作りたい、生み出したい」という思いから、ITエンジニア（＝システムエンジニア）として就職しました。文系の私にとっては覚えることも多く、いくつかの試練もありましたが、自分から知識を身につけようとプログラミングやデータベースの資格を取得するなどの努力をして、乗り越えてきました。

その達成感やお客様からの感謝の言葉が励みとなり、夢であったグローバルな場へと進むことにしました。二年間のアメリカ留学でMBAを取得した後、中国・上海に二年間赴任しました。中国では、オフショアビジネスの推進や、人材管理を担当しました。

帰国後は、コンサルタントとして、グローバル

マーケティングプロジェクトを行いました。この頃は、グローバル人材になるというなかなかできない経験もでき、自分になりたかった自分に一番近づけた時期でもありました。

しかし、子育て期に突入したことで、コンサルティング業務は難しいと判断し、人事へと異動しました。そして、今年からダイバーシティチームとして、グローバルカンファレンスの運営やLGBT+ Pride Monthの企画・運営なども手がけてきました。女性や黒人の採用（1911年）や、人種、肌の色、宗教にかかわらず社員を採用すると宣言するポリシーレターの発行（1953年）など、IBMは創業時から多様性を重視しています。多様性はイノベーションの源泉と捉え、これからもダイバーシティを推進していこうと様々な取組を行っています。

これまでのキャリアは、単に何かを待っていたわけではなく、自分で切り開いてきたからこそ作り上げられたものです。お茶大生の皆さんには、①学生の頃から英語とパソコンのスキルを身につけておく、②試練が未練にならないようにする、③今やりたいことを思いっきりやるように過ごしてほしいと思います。

理学部化学科大学院修了の先輩（2018.7.25）



小学校高学年から理系志望だった私は、大学時代からの車好きが高じて自動車関連企業の研究者の道を志すことにしました。そして、自分が絶対外せない要件(ex. 自動車産業において、化学系技術者がメインで、グローバルに活躍できる会社)を明確にして、就活に臨みました。就職先を選定する時には、事業内容あるいはその企業の商品に興味を持てること、企業理念に共感できることが重要だと思います。自分にとってその企業が魅力的か、自分はその企業にとって魅力的かを考えることが大切です。

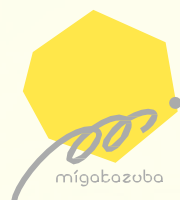
就活では、論理的思考力、対人コミュニケーション能力、課題解決力は、業種を問わず必要な能力となりますので、学生の内から身につけると良いでしょう。グローバルコミュニケーションできる英語力は今後絶対に必要な能力です。コミュニケーション力では、自分が何を発信したいのかが重要

青山美奈氏（株式会社ブリヂストン）

で、それを表現する力と、この場で相手が何を発信しようとしているのかを想像していくことが必要となります。

また、アルバイトなど外の世界でいろいろと体験してください。OGの私から見て、お茶大生には、『女性ならではの』教育が受けられる』などの強みがある反面、「学校が小規模であるため、社会人としてのネットワークが狭い」、「生真面目で、経験の幅が狭い」などの弱みもあります。あらゆるところに出向き、人脈を広げることで、人を知り、自分を知ってもらうことは、今後働いていく中で役立つのではないのでしょうか。ぜひ、皆さんはネットワーキング、経験の幅を意識して広げていってください。

働き始めると、自分の時間の確保が難しくなります。仕事や生活に振り向けた後に残る時間を確保するためには、譲れないものを明確にしつつも、一時期切り捨てるものは切り捨てる必要も出てくるでしょう。入社当時は、結婚・妊娠・出産しても、「女性が働き続けること」自体が価値と考えられていました。しかし、今は、「働き続けること」の先に何を描いているかが自分の価値につながるのであり、自分の価値というのは、「働き続けること」自体ではなく、「社会に何を提供できるか」だと考えています。



平成30年度 お茶の水女子大学論
ロールモデル講演集

発行日 平成31年3月31日

発行 国立大学法人お茶の水女子大学
グローバルリーダーシップ研究所
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
E-MAIL : info-leader@cc.ocha.ac.jp
TEL : 03-5978-5520

<http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/>

編集責任 グローバルリーダーシップ研究所 特任講師 大木直子

編集協力 グローバルリーダーシップ研究所 アカデミック・アシスタント 大持ほのか

文部科学省特別経費(国立大学機能強化分)

「グローバル女性リーダー育成カリキュラムに基づく教育実践と
新たな女性リーダーシップ論の発信」